

手話通訳者からのエッセイ（五十音順）

世界会議の年を除いて、毎年アジア手話通訳者会議を開いています。

2013 年度はアジア会議が開かれなかったため、アジア各国の通訳者に呼びかけ、エッセイを募集しました。現時点で寄せられたエッセイを紹介します。

2014 年 3 月 31 日

梅本悦子

こんにちは

私は、全通研国際部長の梅本悦子です。WASLI アジア地域理事も担当しています。手話に出会って 30 年になります。

私は東京都三鷹市というところに、息子 2 人と住んでいました。毎月、市の広報が発行されます。そこに「手話講座・初級募集」という記事が載っていました。それまで手話は見たことがなかったし、近くにろう者もいませんでした。それなのになぜ、講座に応募したのか？面白そうと思ったのと、講座に保育がついていたからです。

その講座は、三鷹市で初めて開かれた手話講座でした。ですから、私は第 1 期生になります。上の息子を幼稚園に送っていき、下の息子を講座の保育に預けて、手話の学習を始めました。今は「手話奉仕員養成」と「手話通訳者養成」の 2 コースですが、その頃は「初級・中級・上級」というコースでした。それが手話とろう者と私との初めての出会いです。それから 30 年があっという間に過ぎて、今は手話通訳者として、また専門学校の講師として、そして手話奉仕員養成講座の講師として、毎日忙しく過ごしています。

手話を始めた頃は、まだまだ公的な行事に通訳はついていませんでした。私たちは、まず実績を作ろうと、講演会やお料理教室などにボランティアとして自主的に通訳をしました。それから、少しずつですが市の主催行事に通訳がつくようになりました。手話通訳を見ながら一緒に涙を流したり、大きな口を開けて笑ってくれているろう者の姿を見ると、通訳をしてよかったと、とてもうれしくなります。逆に、首をかしげたままわからない表情をされると、とても焦ります。ろうのみなさんからの「ありがとう」を力に、通訳制度がろうの方々にとって暮らしやすいものになるよう、これからも頑張ろうと思っています。

世界手話通訳者会議の年を除く毎年開催しているアジア手話通訳者会議は、今年はマカオで開催予定です。アジアの通訳者が集まり、顔を合わせてお互いの活動を話し合い、情報を交換できる大事な機会です。詳細が決まりましたらみなさんにお知らせします。ぜひ多くの仲間が参加されることを願っています。

奥田淳子

東京から遠く離れた、福岡で活動している奥田淳子と申します。

17年前に手話サークルに入会しました。行政が主催する手話初級講座を受講した後、手話の会というサークルの会員になりボランティア活動を始めました。

「福岡手話の会」という名のこのサークルは、1970、71年に講座を修了した先輩方が73年に会を結成し、昨年40年を迎えました。会結成当初から、ろう者と交流しながら、彼らの言語、文化、歴史への理解を深め、手話の普及や社会的認知をはかり、ろう者の人権擁護や社会参加促進、差別解消をめざして活動してきました。

「福岡手話の会」は地域や活動時間によって、8つの支部に分かれており、会員は300人あまりです。私の所属する支部では平日の夜週一回の例会で活動します。この例会を地域のろう者は楽しみにしてくれています。子供の時の遊びというテーマで会話したときは、ザリガニ釣りの思い出を語るろう者が餌の蛙を引き裂く生々しい表現にみんな唖然。防災士の資格を持つ会員が水害対策について講演してくれて学習。手話スピーチの表現の練習ではろう講師が参加してフォローしてくれます。土日には市・県主催の行事や支部主催のキャンプ・料理教室などもあり、そんなときは長い時間を共に過ごすことで交流を深めます。参加者の年齢層は幅広くそれぞれの得意分野で活躍します。皆が協力し合っで例会を行います。皆いろんなきっかけで手話に興味をもって習い始め、これで終わりということのない、手話の魅力にとりつかれ、サークル活動をしながら楽しみを見つけています。活動を楽しむ中、通訳者になろうと決心する会員もいます。

私は通訳者になって10年余りです。通訳現場では17年前にお世話になったろう講師がいつも心の中にいます。通訳で迷ったり、後悔したり、難しい課題に直面することがありますが、サークルに戻って元気をもらい、リフレッシュしてまたスタートします。

これからも、地域の活動を楽しみながら、少しずつ成長して行きたいと思います。

三澤かがり

親愛なる仲間たちへ

私は三澤かがりと申します。東京生まれで、子どもの頃に7年間アメリカのシアトルに住んでいました。東京の大学で英語を専攻したのち、一般の学校で英語の教師になりました。でも、それは私が本当になりたかったものではありません。小さな頃からの夢は、ろう児のための英語教師になることでした。その夢を胸に、私は20年前に日本の手話を学び始めました。そして今、東京にある2つのろう学校で英語を教えながら、手話通訳者としても活動しています。また、依頼があれば成人のろう者にも英語を教えています。

ことわざで「教えることは二度学ぶに等しい」と言いますが、私は毎日生徒たちと英語と手話を両方学ぶことができ幸せです。聞こえない若者たちが、より良い明日を築くため世故に長けて積極的に参加していけるよう励ますことに喜びを感じています。

昨年、2012年に、香港で開催されたアジア手話通訳者会議に参加する素晴らしい機会を得ました。そこでアジアのいくつかの国の手話通訳事情について多くを学ぶことができました。とても幸せで充実した時間でした。また、手話通訳の仲間たちとおしゃべりを楽しみ、お互いの国について情報交換をしました。来年またぜひマカオで皆さんとお会いしたいです！



第5回アジア手話通訳者会議（右端が筆者）

Lindley S.Saladaga

何かからお話ししましょう？私は Lindley S.Saladaga です。フィリピンのセブ市の手話通訳者です。私の国では手話通訳者はろう者へのボランティアだとみなされています。私は今で16年活動をしています。今までのところ、ろう学生の指導以外は、手話通訳は付随的な活動です、さて、フィリピンの手話通訳者としての私の経歴です。セブ州立大学（現 セブ・ノーマル大学）の1年生の時、セブ点字センター（CBC）の盲人学生と知り合いました。CBCはセブ市での盲人学生の教育を担う非政府組織です、2人の盲人学生のために、復唱をしました。学生に大きな声で読み上げ、私が読み上げた内容を点字で打つのです。2年間盲人学生のボランティアをしました。1994年に社会科学の中等教育の学士号課程を終え、同じ大学の修士課程で難聴者の特別教育を専攻しました、セブ大学(UC)で、毎週日曜の無料の手話講座を2年間受講しました。これは、セブ東ロータリークラブ、教育文化スポーツ省、そしてUCの助成によるものでした。2年間手話を学び、セブのパニラッドろう者ミッションで、セブろう者社会にかかわるようになりました。これは修道会が運営していました。ろう者向けのミサやろう者にかかわる活動に参加しました。手話の技術向上につながったのは、マニラのセント・ベニルデ・デ・ラ・サル大学(St. Benilde University of the South)のろう学生がやって来たことでした。1997年、彼らの手話サマワークショップに参加しました。そのワークショップは、セブ州立科学技術大学(CSCST 現セブ工科大学)で開かれました。同じ年に、教育課程をとっている2人のろう学生の通訳をしました。当初、教育分野での手話通訳者の役割がわかりませんでした。2人のろう学生はインクルーシブ教育を試行していたのです。聞こえる学生は、ろうに対する認識がなかったので、私の立場は難しいものでした。2人は教育者となって2000年に卒業できました。ろう教育をめぐる最近の課題を知るため、2009年、バンコクでアジア太平洋ろう者会議(APCD)などに参加しました。2010年にはブリティッシュ・コロンビアのバンクーバーで、国際ろう教育会議(ICFD)にも行きました。2011年は南アフリカ、ダ

ーバンでの WASLI 集会、最近では 2013 年 10 月オーストラリア、シドニーでの WFD 会議に参加しました。シドニー会議のテーマ「ろう者にとっての平等」が我が国にも適用されればと願います。(2013 年 10 月 15 日セブとボホールをマグニチュード 7.2 の地震が襲いました。大学の建物のうち 4 つが授業ができにくい状態です。2013 年 11 月 8 日には台風がやってきて悲しいことに多くの人命や家屋が失われました。フィリピンの人々がこの困難を克服することを願っています。

林 智樹

こんにちは！

私の名前は、ハヤシトモキです。私は、日本手話通訳士協会（JASLI）の副理事長です。そして、国際交流委員会の委員長を担当しています。

JASLI は、1991 年に設立されました。国の認定を受けた試験に合格した、手話通訳者 2000 人が、会員となっています。

JASLI は、手話通訳者の地位の向上、そして手話通訳制度の発展のために、活動しています。

JASLI の活動内容は、研修、研究、出版、国際活動、関係団体との共同です。

さて、私は、3 年前から副理事長を努めています。私は、国際活動は、2000 年から行っています。私は、WASLI 設立のためのワーキンググループの一員として、アメリカ・ワシントンでの会議に参加しました。また、私は、南アフリカでの WASLI 設立総会にも参加しました。私は、WASLI の設立を、世界の仲間と一緒に、喜ぶことができました。

JASLI の国際活動は、WASLI の活動への参加、アジア手話通訳者会議への参加、国際情報についての会員への発信です。

私は、最後に、自己紹介をします。

私は年齢は 52 歳。私は、手話は 19 歳のときから学びました。私は、大学卒業後、京都にある聴覚障害者センターに就職し、手話通訳者として働きました。

私は、33 歳から、大学で手話通訳についての研究をはじめました。

私は現在は、名古屋市にある金城学院大学の教授として、教育・研究に従事しています。

2014 年は、マカオでアジア会議が開かれます。

私は、みなさんに、そのときに会えることを楽しみに待っています。

以下のメールアドレスに連絡ください。j-syuwatuyakusi@crocus.ocn.ne.jp